



UP DATE



■ 第20回非開削技術研究発表会の開催

平成21年11月26日(木)に、東京港区虎ノ門の発明会館ホールにおいてJSTT第20回非開削技術研究発表会を開催しました。投稿論文数は全23編であり、これを以下の7セッションに分けて発表頂きました。発表時間は各々15分とし、セッションの最後にまとめて質疑応答時間を設定しました。

①非開削技術の海外展開、②非開削管検査・評価・修正技術、③非開削耐震性強化技術、④非開削地下探査技術、⑤非開削管更生技術、⑥非開削長距離・超大口径管推進技術、⑦非開削管敷設、その他要素・周辺技術(次頁に発表プログラムを掲載)

また、この発表会に合わせて来日中のISTT(国際非開削技術協会)会長D.ダウニー氏からは、JSTTの日頃の活動を評価・支援する温かい挨拶の言葉を頂きました。

なお、会員サービスとして、会場入り口に会員企業、協会のPRコーナーを設けました。

今回の発表会の参加者は会員を中心に約200名に達し、近年にない盛況となりました。

■ ISTT(国際非開削技術協会)会長

D.ダウニー氏技術講演会の開催

平成21年11月27日(金)に、(社)日本下水道管渠推進技術協会会議室において、来日中のISTT会長D.ダウニー氏による技術講演会を開催しました。主な講演テーマは彼の専門分野である非開削管路調査・点検、更生技術に関するものでありました。この中でも既設管の中を球状センサー(スマートボール)を転がして漏水箇所を探知する技術や、シャーベット状の氷(アイスピグ)を水圧で移動させて管内を清掃する技術など、欧州の新たな技術の紹介があり、講演は非常に興味深いものでありました。なお、聴講者は約30名でした。

■ 非開削技術見学会の開催(平成21年度第2回)

平成21年10月15日(木)に、全国ヒューム管協会のご協力を頂き、栃木県真岡市内の遠心力鉄筋コンクリート管(ヒューム管)製造工場(中川ヒューム管工業(株)真岡工場)の見学会を開催しました。この見学会では、まずヒューム管の製造手順(鉄筋かご組み立て

やコンクリート打ち込みなどの手順)を説明頂いた後、実際の製造工程を見学しました。

事前の手順説明と現地技術者の分かり易い説明により、ヒューム管が作られ、出荷されてゆく状況が良く理解できる見学会であったとの参加者の意見を頂きました。なお、見学会参加者は約25名でした。

■ JSTT各委員会

(1) 技術委員会

第69回技術委員会を平成21年9月30日(水)に開催しました。この委員会では先に募集した第20回非開削技術研究発表会への投稿論文概要に基づき、採用の可否、セッション分け・時間配分、各セッションの座長、参加費等について論議、決定しました。また、遠心力鉄筋コンクリート管製造工場の見学会実施計画が承認されました。さらに、第16回非開削技術講演会実施結果、HDD工法現場見学会実施結果、工法ナビゲーションシステム運営委員会活動状況、HDD工法委員会活動状況が報告され、いずれも了承されました。

(2) 機関誌編集委員会、編集企画小委員会

【機関誌編集委員会】

第71回機関誌編集委員会を平成21年10月7日(水)に開催しました。この委員会では第3クールも完了が近くなった非開削技術特集の今後の進め方について、意見交換が行われました。次期クールの最初となる本年7月1日発行の機関誌No-Dig Today第72号に向けて、更に引続き今後の進め方を継続審議することとなりました。

【機関誌編集企画小委員会】

第68回小委員会を平成21年10月7日(水)に、第69回小委員会を12月2日(水)に開催しました。これらの委員会では小口径管更生工法を特集する本年1月1日発行の機関誌第70号に掲載する対象工法の選定と記事執筆上の留意事項、新たにスタートした「技術の歴史」特集の今後の方向性、機関誌第69号で終了した特集「低炭素化社会の路上工事を問う」の発展的継承、および小委員会の連載記事「深川探索」の取材対象選定と将来展開などについて審議されました。

(3) 工法ナビゲーションシステム運営委員会

第29回工法ナビゲーションシステム運営委員会を平成21年10月21日(水)に開催しました。この委員会

▶▶▶▶▶ UP DATE ◀◀◀◀◀

では、当ナビゲーションシステムへの新規参加状況、アクセス数の増加傾向が報告され、また小口径管泥濃式推進工法の名称変更、下水道管更生工法の検索に関する課題を論議し、委員会としての考え方をまとめました。

(4) HDD 工法委員会

第39回HDD（誘導式水平ドリル）工法委員会を平成21年11月19日（木）に開催しました。この委員会で

は、昨年2月に発行した標準設計積算要領の適用条件の市場性および今後の適用条件見直しの方向などを審議し、さらにHDD工法が設計積算要領以外の特殊条件でも多く有効に利用されていることをアピールするため、工法ナビゲーションシステムに工法施工実績を①特殊条件に限定した適用事例、②過去2年間の全工事例、に区分して掲載することを決定しました。

第20回非開削技術研究発表会プログラム

第1セッション 非開削技術の海外展開		座長：堀地 紀行	国士舘大学 理工学部 基礎理学系 教授
1.1	台湾における超流バランス式パイプーフ推進工法の実績	㈱アルファビルエンジニアリング	松元 文彦
1.2	シンガポールプロジェクトにおける日本の推進技術の適用	九州大学大学院工学府	佐藤 徹
1.3	台湾下水道非開削事情	恩田管路技術事務所	恩田 實
第2セッション 非開削 管検査・評価・修正技術		座長：櫻井 克信	(社)全国上下水道コンサルタント協会 専務理事
2.1	管路の内径形状の精密測定・解析システム「プロファイラ」	㈱カンツール	後藤 幹雄
2.2	衝撃弾性波検査技術による既設管路の健全度評価	日本水工設計㈱	加藤 佳英
2.3	公共下水道管路施設のカンバックによる調査結果評価事例	管清工業㈱	櫻井 俊之
2.4	U.G.S工法における地盤内でのグラウト材挙動の基礎的検討	九州大学大学院工学府	幸村 将士
第3セッション 非開削 耐震性強化技術		座長：今井 一彦	(株)建設技術研究所 水システム部 下水道室長
3.1	既設管きよとマンホールの接続部の耐震化技術マグマロック工法NGJ	日本スナップロック協会	田澤 貴光
3.2	マンホール浮上防止対策工法 WIDEセフティパイプ工法	藤村ヒューム管㈱	高野 公昭
3.3	耐震性を実証した「ダンビー工法」～新潟県中越沖地震調査結果～	EX・ダンビー協会	原田 孝知
第4セッション 非開削 地下探査技術		座長：須藤 佳一	アイレック技建㈱ 取締役 営業開発本部長
4.1	高解像度地中レーダシステム（G-Cube）を用いた空洞マッピングの有効性について	ジオ・サーチ㈱	岡本 順平
4.2	欧州における非開削探査技術事情	日本ガス協会	網崎 勝
第5セッション 非開削 管更生技術		座長：藤木 修	(助)下水道新技術推進機構 下水道新技術研究所長 兼 技術評価部長
5.1	既設電力管内面からの部分的補修工事の適用について	東京電力㈱	小貫 勝彦
5.2	管路設備の有効利用を図るケーブル収容管補修技術	NTTアクセスサービスシステム研究所	是國 亨
5.3	大口径・自立管路更生を可能にするSPR-PE工法について	積水化学工業㈱	松本 晃治
5.4	薄肉FRPM管を用いた圧力管路の改修技術 - 中込充填を用いたスリーブインライト工法について	㈱栗本鐵工所	片平 和司
第6セッション 非開削 長距離・超大口径管推進技術		座長：大塚 正博	東京電力㈱ 工務部 スペシャリスト
6.1	泥濃式（超流バランス式）における玉石砂礫層・長距離推進の施工事例	㈱アルファビルエンジニアリング	森田 智
6.2	超大口径管推進工法（φ3,700mm）	機動建設工業㈱	小森 大輔
6.3	塩化ビニル推進管長距離曲線直線推進工法 ベル工法	馬淵建設㈱	保立 尚人
第7セッション 非開削 管敷設、その他要素・周辺技術		座長：川相 章	(社)日本下水道管渠推進技術協会 技術部長
7.1	浮力を利用した長距離鞘管内への鋼管挿入工法	東京ガス㈱	吉田 宣宏
7.2	“リバースエースシステム”の適用拡大に向けた取り組み	アイレック技建㈱	小池 清
7.3	施工性・安全性向上を図る「セオドライトTVモニタシステム」	㈱ハウショウEG	大久保篤志
7.4	閉鎖水域におけるヘドロ非開削処理	東洋建設㈱	星山 文基